

中興の祖 酒井忠徳と庄内藩校致道館

⑥

学校の名称は、『論語』の一節「君子学以致其道」から、「致道館」と命名されました。『論語』は、儒学の始祖孔子と高弟の言行録です。孔子の没後に編纂され、約400年後に成立しました。とても簡潔な文面で広く普及しましたが、簡潔すぎて意味を定めにくく、後世に多様な解釈が生まれました。儒学では、武力で国を支

配するのではなく、君子の徳で「政治」を行うべきであるといわれます。君臣や親子などの上下関係に基づき、忠孝や礼儀を重んじることが社会の平和に必要なと説いたのが孔子です。江戸幕府が採用した朱子

学は、中国南宋時代の儒学者朱熹が解釈したものです。儒学の中でも上下関係、礼節や道徳を特に重んじました。それが幕府の封建制度と身分社会の維持に都合がよく、武士が学ぶべき学問として奨励されました。

江戸時代中期まで、庄内藩でも朱子学を学んでいました。但徠学を提唱したのは、萩生徠徠【写真1】に直接師事した家老水野元朗と番頭足田進修とされています【写真2】。但徠学は後世の注釈にとらわれずに語句や文章を正しく理解し、儒学を解釈しようとする学派です。学問は世を治める政治の道であり、民生を豊かにすると説いています。

学校づくりは大変〈学問編〉



酒井家庄内入部400年



忠徳は、致道館の創設にあたり「但徠学」を採用します。学校設立の責任者は、農政改革で忠徳の信頼を得た白井矢太夫です。矢太夫の祖父は徠徠の門人であり、矢太夫自身も但徠学を修めた優秀な学者でした。致道館は、但徠学の影響が色濃く反映され、知識の詰め込みではなく、自学自習を重視した学風に特徴があります。武芸は専任師範が指導にあたり、校内での教育だけでなく、終日野外に出て鳥刺しや釣魚、一昼夜歩き続ける「遠足」を行うなど、心身の鍛錬にも励みました。

ところで、「寛政の改革」で幕府の学問所・昌平黉では朱子学以外の学問を禁止しました(勿論、但徠学も)。庄内藩が但徠学を採用できた理由を調べると「水野元朗が幕府でも認められる存在だった」「譜代大名で特別」などがありました。他

①寛政改革の影響が低下した。忠徳が学校開設の準備を始めた頃、「寛政の改革」を主導した松平定信(忠徳の義弟)は、既に失脚して老中首座を退いています。優れた理想を掲げた改革でしたが、厳しすぎて反発が高まり、影響力は弱まって



【写真2】徠徠先生答問書 水野らの質問に徠徠が答えた書簡

②幕閣と忠徳の関係 定信の後に老中首座となつた松平信明は、忠徳の息子・忠器の舅となる人物でした。しかも、信明を当主とする大河内松平家は、酒井家4代忠当

【写真1】萩生徠徠像 佐藤淳